高知大学医学部家庭医療学講座のご紹介

阿波谷敏英
高知大学医学部家庭医療学講座　教授

高知大学医学部家庭医療学講座は平成19年7月1日に開講しました．高知県からの寄附講座（寄附額：年間2,500万円）で，教授1名，准教授1名，事務員1名の体制です．人口あたり医師数が全国トップクラスの高知県においても若い医師の流出，県中央部への医師の一極集中などにより地域医療崩壊が顕在化してきています．こうした流れを受けて，地域で家庭医として勤務する医師の育成をめざし，家庭医養成プログラム開発，生涯教育支援システムの開発，情報技術を用いたシステム開発などをおこないながら，医学教育，生涯教育に携わっています．

まだ開講して9ヶ月ですので十分な体制ではなく准教授は空席のままでしたが，近日中に着任予定で，徐々に体制作りをしている段階です．

当講座がこの9ヶ月間に取り組んできたことをご紹介させていただきます．

【医学部教育】

平成19年度には，従来からおこなわれていた5年生の地域医療実習（保健所，老人保健施設，訪問看護・リハビリ，へき地診療所），プライマリ・ケア実習（市中医療機関）に指導者として関わってきました．平成20年度からは，地域医療実習，プライマリ・ケア実習を一体的に行なうことになり，当講座としては，へき地診療所，市中医療機関での実習に引き続き関わり，さらに充実させていく予定です．

講義は，地域医療とプライマリ・ケアについて「医療と医学の基本理念と社会」（2年生），「地域医療学」（6年生）の一部を担当しました．平成20年度入学者より新カリキュラムが始まり，「早期医療体験実習」（1年生），「地域医療と在宅医療」（3年生）を当講座でコーディネートします．

また，学生の自主的な医学サークルACT-K（Association of Clinical Training -Kochi. http://www.geocities.jp/actk2007/），ISM（Institution of Studying Medicine）にはスーパーバイザーとして指導にあたっています．

【研修医教育】

卒後臨床研修センター会議の一員として，研修環境整備，研修医勉強会への協力をおこなっています．医学部附属病院においては総合診療部が外来診療の研修機会を提供し指導をおこなっていますが，後述の管理運営する診療所で家庭医としての研修を組み込むことの可能性についても検討をおこなっていく予定です．

【高知大学医学部家庭医養成後期研修プログラム】

高知県内の自治体病院，診療所，大学病院を循環する形での後期研修プログラムを準備しています．現在，家庭医療学会認定後期研修プログラムの申請を準備しています．後述の管理運営する診療所での研修を加えることにより，さらに魅力のあるプログラムにしていきます．

【高知県の地域医療，プライマリ・ケアに関する研究】

平成19年度から，高知県内の3自治体の国保

被保険者の受療動向を調査しています．さらに，平成 20 年度には新たに 1 自治体の受療動向を調査する予定です．いま言われている地域医療崩壊がどういうことなのか，医療体制はどうあるべきなのかを検討しています．この研究に関しては，2008 年 1 月の日本プライマリ・ケア学会四国支部会（高松）で報告していますが，さらに考察を深め，2008 年 6 月の日本プライマリ・ケア学会学術会議（岡山）で報告する予定です．

【家庭医道場】

高知県内の地域で医療を学ぶことをコンセプトとした課外活動を今までに 2 回行ないました．平成 19 年 12 月には，高岡郡梼原町で 20 名の医学科学生に参加してもらって，臨床推論・身体診察トレーニング，胸部 X 線，腹部超音波，心電図，血液検査などの実習をおこないました．夜には，地元の一般の方，医療関係者とともに，郷土料理を食べながら地域医療を語り明かしました．

好評であったため，平成 20 年 3 月に，安芸郡馬路村で 18 名の医学科学生，14 名の看護科学生に参加してもらい，地域医療について講演会，ワークショップ，フィールドワークを行ないました．夜の懇親会も盛り上がりました．

地域に行くということは，学生にとってみると非常に新鮮です．私が期待した以上に学生は多くのことを感じ，学んでくれました．最近の地域医療崩壊という言葉に学生たちは，当初，地域医療にマイナスイメージを持っていたようです．しかし，コミュニティの中で家庭医として働く医師・看護師・保健師と地域住民の良好な関係を見て，アンケートでも家庭医，プライマリ・ケアに対する意識が改善していました．また，ともに地域医療を創り育てるという点からも地域住民の方にも学生教育に参加していただくことは有意義と考えています．家庭医道場の取り組みについては，2008 年 5 月の日本家庭医療学会学術集会（東京）で報告する予定です．

この家庭医道場は今後も続けていく予定ですが，他大学からの参加も受入れて行こうと考えています．情報は，随時，ホームページ（http://www.kochi-ms.ac.jp/~ff_famed/）で告知します．興味のある学生さんの参加をお待ちしています．

2008年3月30日　家庭医道場2008 in ごっくん馬路村での記念撮影

施設紹介

【家庭医療講演会】

学生，研修医など若い先生方に，家庭医，プライマリ・ケア医，総合医について関心を持って考えてもらう機会を作ることを目的に講演会を不定期でおこなっています．また，地域の家庭医の先生方の生涯教育の場としていただきたく思っております．

平成20年1月には，旧・高知医科大学卒業生でもある花見川中央クリニック北垣毅院長にお話をいただきました．アメリカでの家庭医武者修行のこと，現在のクリニックでのことなど熱く語ってもらいました．また，平成20年5月には，福井大学総合診療部寺澤秀一教授にもご講演をいただく予定になっています．

【診療所運営管理】

高知大学は，高知市立土佐山へき地診療所を指定管理者として運営・管理をおこなうことを計画しており，平成20年7月スタートを予定しています．国立大学として公立診療所の指定管理を受けることは全国初の取組みです．

土佐山地区（旧土佐山村）は高知市北部にある人口1,100人あまりの地区です．診療所は無床で，地区唯一の医療機関です．保健センター，デイサービスセンターなどの保健福祉の資源もあり，家庭医として医療活動をおこなう環境が整っています．家庭医療学講座の教員が診療にあたりますが，良質な診療をおこない地域に貢献することはもちろん，医学教育の場，臨床疫学研究のフィールドとしても活用していく計画です．先述の医学部教育，研修医教育，後期研修においても従来の大学には乏しかった魅力を持たせることができるものと思っております．さらに次のステップとして，IT技術の活用により大学と連携し情報システムの開発にも繋げたいとも考えています．

まだまだ，一つ一つ手探り状態でやっていることが多いのですが，トータルとして家庭医療を教え，伝えるものを作り上げていきたいと考えています．学生と接していて，学生の家庭医に対する理解・意識は確実に上がって来ていると感じています．初心を忘れずに続けていれば…と大学の部屋で夢を見ているこの頃です．

施設紹介